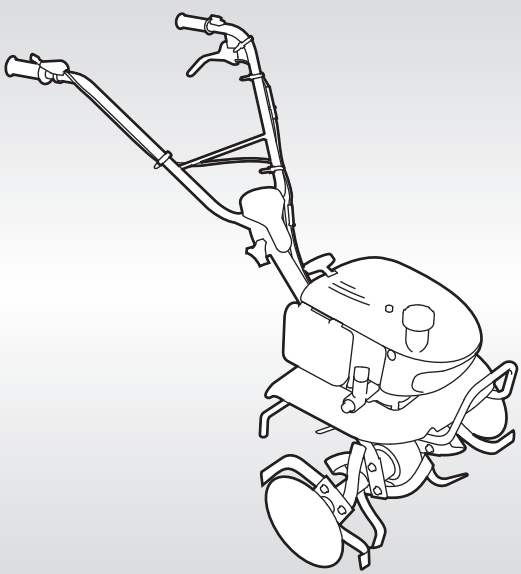
HONDA

耕うん機

F220

取扱説明書



ご使用になる前に、必ずこの取扱説明書を
お読みください。

はじめに

この取扱説明書は、お買いあげいただいた商品の正しい取扱い方法、簡単な点検および手入れについて説明してあります。
本機を運転する前にこの取扱説明書を良くお読みいただき、本機の操作に習熟してください。

安全に関する表示について
本書では、運転者や他の人が傷害を負ったりする可能性のある事柄を下記の表示を使って記載し、その危険性を説明しています。これらは安全上特に重要な項目です。必ずお読みいただき指示に従ってください。

⚠危険
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの

⚠警告
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

⚠注意
指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

取扱いのポイント
指示に従わないと、本機やその他の物が損傷する可能性があるもの

なお、この取扱説明書は、仕様変更等によりイラスト、内容が一部実機と異なる場合があります。
本書は JT 区分（タイプ）を中心に説明してあります。

目次

安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう... 4
安全ラベル ... 9

サービスと保証について ... 11

各部の名称と取扱いをおぼえましょう ... 12
エンジンスイッチ ... 14
エンジン回転調整レバー ... 14
主クラッチレバー ... 15
始動グリップ ... 15
チョークレバー ... 16
燃料コックレバー、ドレンつまみ ... 16
ハンドル固定レバー［BAT 区分（タイプ）］ ... 17
ハンドル高さ調整つまみ ... 18
ヒッチボックス（作業機取付け部）、ドラッグバー（抵抗棒） ... 19

作業前に点検・調整しましょう ... 20
作業前の点検 ... 20
燃料の点検 ... 21
エンジンオイルの点検 ... 23
エアクリーナー（空気清浄器）の点検 ... 25
ドラッグバー（抵抗棒）の調整 ... 26
ハンドルの角度調整：（左右方向）［BAT 区分（タイプ）］ ... 27
ハンドル高さの調整 ... 28
ハンドルのたたみかた ... 29

エンジンのかけかた ... 31

運転操作のしかた ... 36
主クラッチレバー ... 36
エンジン回転調整レバー ... 37

エンジンのとめかた ... 38

定期点検を行いましょう 41

点検・整備のしかた 42
エンジンオイルの交換 42
変速機オイルの点検 44
エアクリーナー（空気清浄器）の清掃・交換 46
点火プラグの点検・調整・交換 47
エンジン回転調整ケーブルの調整 48
主クラッチケーブルの調整 49
耕うん爪（ローター）の点検・交換 51

使用後の手入れ 53

長期間使用しないときの手入れ 54

故障のときは 56

車への積載のしかた 57
車の荷台への積載 57

主要諸元 58

同梱部品およびハンドルの組立てかた 59

安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう

警告

あなたと他の人の安全を守るために次の指示に従ってください。

作業を始める前に

- この取扱説明書を事前に読み、正しい取扱い方法を十分ご理解の上で操作してください。
- 間違いなく取扱うために各部の操作に慣れ、すばやく停止させる方法を習得してください。
- 妊娠中の人、飲酒した人、過労、病気、薬物の影響で正常な運転ができない人は本機を使用しないでください。判断が鈍り重大な事故を引き起こすことがあります。
- 作業をするときの服装は、作業帽などをかぶり、滑り止めのついた作業に適した靴をはいて、きちんと身体にあったものを着用してください。
- 裸足や爪先が開いている靴やサンダルで操作をしたり、だぶついた服や巻きタオル、腰タオルなどは動いている部品に引っかかるなど、思わぬ事故を起こすことがあります。
- 適切な指示、説明なしでは絶対に誰にも本機を運転操作させないでください。また、子供には操作させないでください。事故や、機器の損傷が起こる原因となります。
- 本機を他人に貸す場合は、取扱い方法をよく説明し、取扱説明書をよく読むように指導してください。
- 作業前の点検や定期点検を必ず行い本機を常に良好な状態にしておいてください。不具合のある状態や問題のある状態で操作すると、大ケガをすることがあります。
- 点検作業は、通行の妨害にならないような場所および平坦で安全な場所で行ってください。
- 本機、作業機を吊り上げて点検する場合は、必ず落下防止の措置をとってください。
- 作業機の取付けは平坦で安全な場所で行ってください。
- 作業内容に適した推奨作業機を使用し推奨以外の作業機は使用しないでください。思わぬ事故の原因となりケガをするおそれがあります。
- 作業内容に適した作業機は、お買いあげいただいた販売店にご相談ください。

「車軸と連動し駆動する推奨作業機」耕うん爪の回転直径は：
28 cm 以下 ※

※：平成 22 年度安全鑑定基準に基づく

警告

作業を始める前に

- 作業機を使用する前には、作業機の取扱説明書をよくお読みください。
- カバーやラベル類、その他の部品を外して操作しないでください。
- 本機や作業機の改造は絶対にしないでください。また、指定部品以外は使用しないでください。
  適性な性能や機能を発揮しなくなり、思わぬ事故をまねきケガをするおそれがあります。
- 屋内でエンジンを回しながら点検する場合は換気に十分注意してください。換気が悪いと有害な一酸化炭素によるガス中毒のおそれがあります。

作業中

- ほ場に人やペットを近づけないでください。特に子供には注意して、子供がほ場に入ったときにはエンジンスイッチを切ってください。思わぬ事故を引き起こし、ケガをするおそれがあります。
- 傾斜地での作業は、本機の落下や巻き込まれ、転倒等による事故のおそれがあります。やむを得ず傾斜地で作業する場合は、必ず作業前に本機が安全に使用できることを確認し、十分注意して作業を行ってください。
  - ・急な傾斜地では作業はしないでください。傾斜角度が大きいほど、事故が起きやすくなります。また、使用される作業機や作業内容、ほ場の状態により、安全に使用できる傾斜角度は小さくなります。
  - ・傾斜地での作業は、上下方向よりも、なるべく横方向（等高線方向）に行うようにしてください。上下方向の作業は、本機が滑り落ちて来たり、運転者の足元が滑って本機に巻き込まれたりしてケガをするおそれがあります。
  - ・傾斜地での旋回は転倒事故のおそれがあるので、速度を十分に落とし、周囲に注意してハンドル操作を行ってください。
  - ・傾斜地では必要以上に速度を上げないでください。速度が速すぎるとバランスを崩しやすく転倒してケガをするおそれがあります。
  - ・傾斜地では本機がかたむき、燃料がにじみ出ることがあります。燃料の量はタンクの半分以下を目安にしてください。

警告

作業中

- ほ場への出入り、溝または畦の横断、軟弱地の通過などは、エンジン回転を下げ、低速で行ってください。転倒しケガをするおそれがあります。
  - ・急傾斜、溝または畦越えを行うときは、アユミ板等を使用して、上りは前進、下りは後進で行ってください。本機を落下させたり、車軸部に過大な力をかけると本機を破損するばかりでなくケガをするおそれがあります。
  - ・ほ場の状況を十分に把握し、周りに注意して行ってください。
- 作業中に異常を感じたら、必ずエンジンを停止させてから点検を行ってください。
- 休憩などで本機を離れる場合はエンジンを止めて安定した場所に置いてください。
- 爪（ローター）は鋭く尖っていて、高速で回転します。間違って接触すると死傷事故を起こすおそれがあります。
  - ・エンジンがかかっているときは、絶対に手や足を爪に近づけないでください。
  - ・作業中に爪を点検するときは、必ずエンジンを停止し、不意に始動しないように、点火プラグキャップを取外して行ってください。また、手を保護するために厚手の手袋をしてください。
- 回転している爪に異物が当たると、非常に強い力でとび散りそれにより大ケガをするおそれがあります。
  - ・作業の前にほ場から棒、大きな石、針金、ガラス等を取除いてください。
  - ・作業中異物に当たったときはすぐにエンジンを止め、点火プラグキャップを取外し、注意して損傷を調べてください。損傷したまま再始動すると思わぬ事故になり、ケガをするおそれがあります。

警告

作業中

- ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。ガソリンを補給するときは必ずエンジンを停止して換気の良い場所で行ってください。
  - ・ガソリンを補給するときや燃料タンクの付近ではタバコを吸ったり炎や火花などの火気を近づけないでください。
  - ・ガソリンはこぼさないように注意し、所定のレベル（給油限界位置）を超えないように補給してください。燃料給油キャップを確実に締め、もしガソリンがこぼれた場合は、きれいにふき取りよく乾かしてからエンジンを始動してください。
  - ・ふき取った布きれなどは、火災と環境に十分注意して処分してください。
- 排気ガスには有害な一酸化炭素が含まれています。屋内や囲いのある場所で作業を行うときは、排気ガスが蓄積しないように、適切な換気をしてください。一酸化炭素によるガス中毒のおそれがあります。
- 旋回するときは、エンジン回転を下げ、周囲や足元に十分注意し、人や障害物がないことを確認して余裕をもって行ってください。思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

作業が終わったら

- 次の作業のために本機の点検、整備を行ってください。
- 作業機の取外しは、平坦で安全な場所で行ってください。
- エンジン上部に物をのせないでください。
- 停止後のエンジンとマフラー（消音器）は非常に熱くなっています。特にマフラーは熱くなっているので、手で触れたりポリタンク等をのせないでください。ヤケドをしたり、変形や漏れなどが発生する場合があります。
- ボディーカバー等をかける場合は、エンジンが冷えてから行ってください。火災を引き起こすおそれがあります。

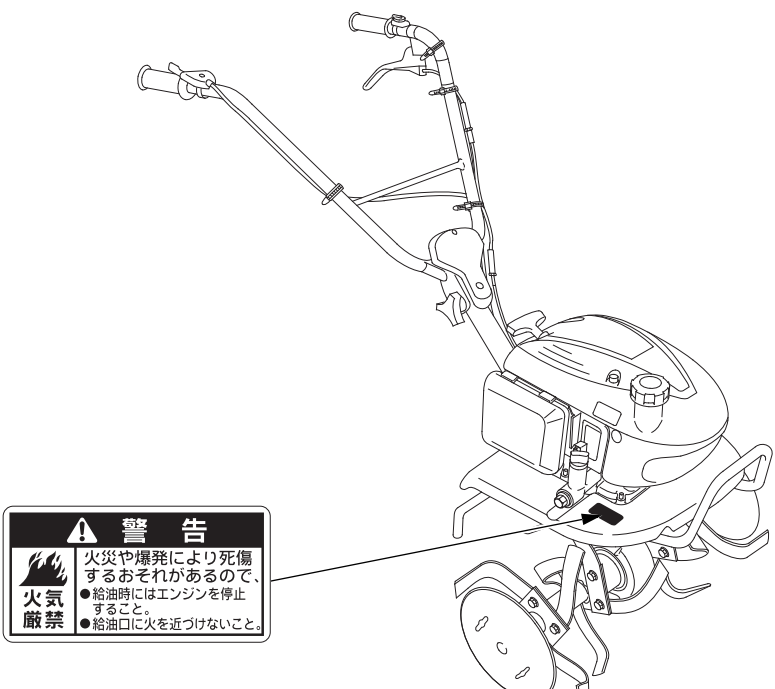
警告

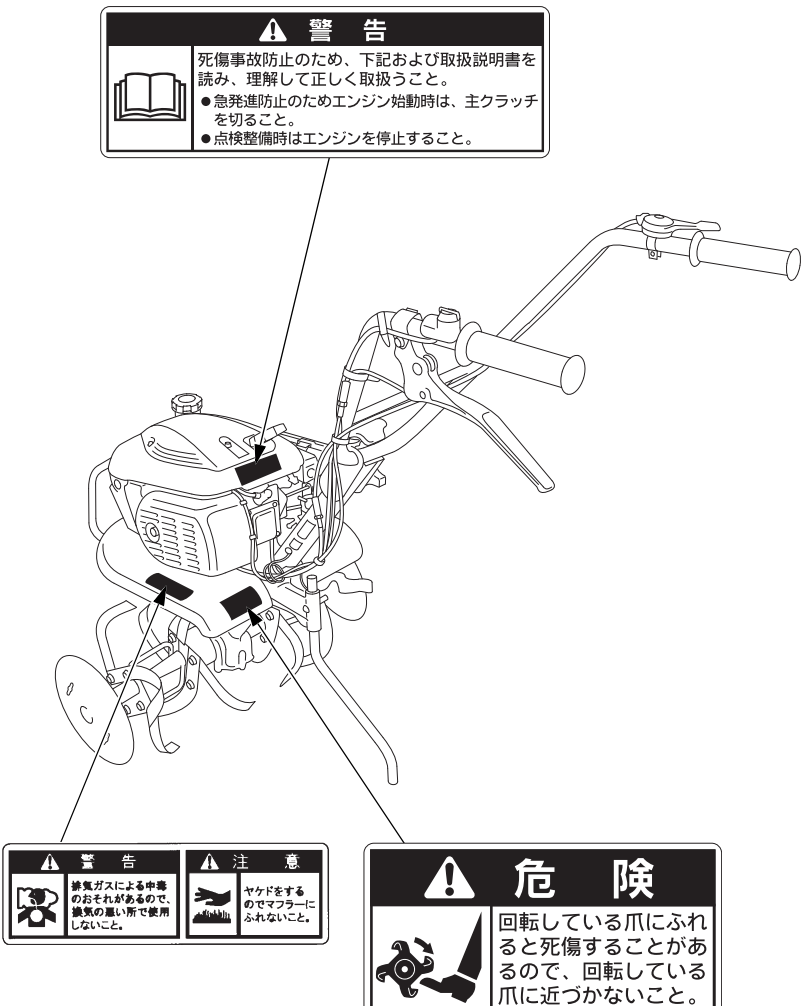
積み降ろしおよび運搬時

- 本機をトラック等へ積み降ろしするときや、運搬をするときは次の指示に従ってください。守らないと思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。
  - ・荷台から本機、作業機がはみ出さない車を使用してください。
  - ・積み降ろしは、平坦な場所で行ってください。
  - ・積載する車は、エンジンを止め、駐車ブレーキをかけて、変速レバーを低速に入れて確実に動かないようにしてください。
  - ・荷台に載せた本機は水平にして、丈夫なロープで確実に固定してください。
  - ・エンジンは必ず停止してください。
  - ・運搬時本機の燃料タンクおよびキャブレターの燃料を抜いてください。
  - ・必ず２人以上で持って、車の荷台に載せてください。

安全ラベル

本機を安全に使用していただくため、本機には安全ラベルが貼ってあります。安全ラベルをすべて読んでからご使用ください。
ラベルはハッキリと見えるように、きれいにしておいてください。
本機に貼ってあるラベルが汚れ、破れ、紛失などで読めなくなってしまったときは新しいラベルに貼り替えてください。また安全ラベルが貼られている部品を交換する場合はラベルも新しい物を貼ってください。安全ラベルはお買いあげ販売店またはサービス店にご注文ください。




警　告
死傷事故防止のため、下記および取扱説明書を読み、理解して正しく取扱うこと。
●急発進防止のためエンジン始動時は、主クラッチを切ること。
●点検整備時はエンジンを停止すること。
警　告
排気ガスによる中毒のおそれがあるので、換気の悪い所で使用しないこと。
注　意
ヤケドをするのでマフラーにふれないこと。
危　険
回転している爪にふれると死傷することがあるので、回転している爪に近づかないこと。

サービスと保証について

お買いあげいただきました商品について、ご使用中の故障やご不明な点またサービスに関するご用命は、お買いあげいただいた販売店またはサービス店にお申しつけください。

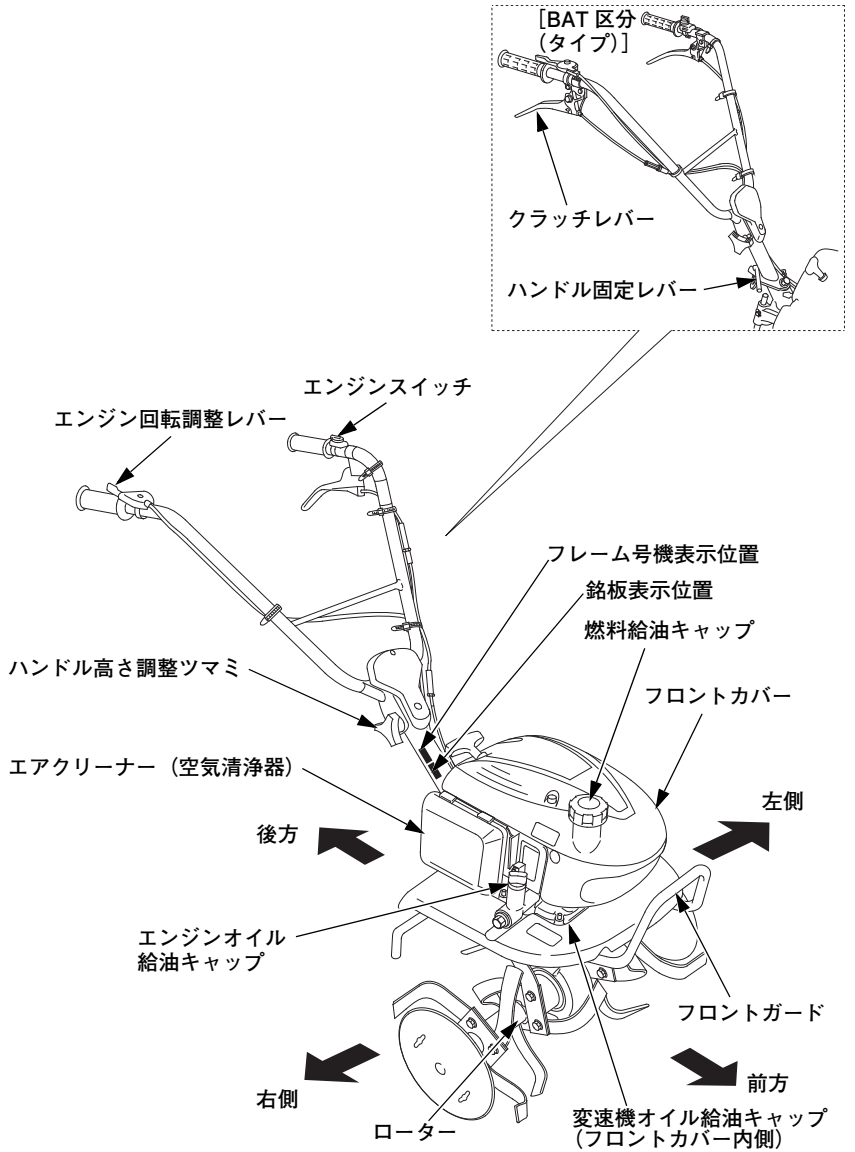
ご利用の際は商品名とフレーム号機をご連絡くださるようお願いいたします。



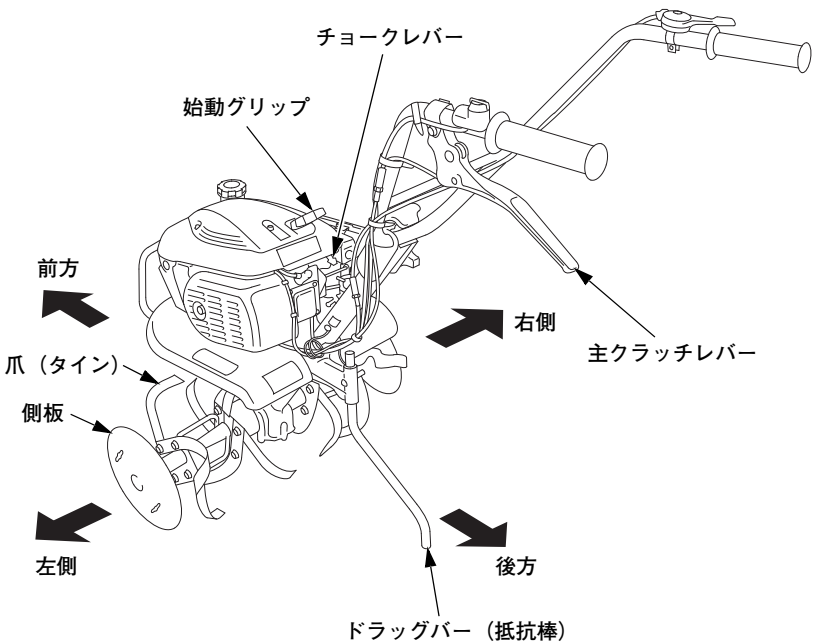
※ フレーム号機および銘板の表示位置は
12 頁をご覧ください。
（参考：左の銘板は JT 区分（タイプ）の物です。）

本機の改造や、仕様の限度を超える使用は保証の対象外になるのでご注意ください。（詳細は保証書をご覧ください。）

各部の名称と取扱いをおぼえましょう

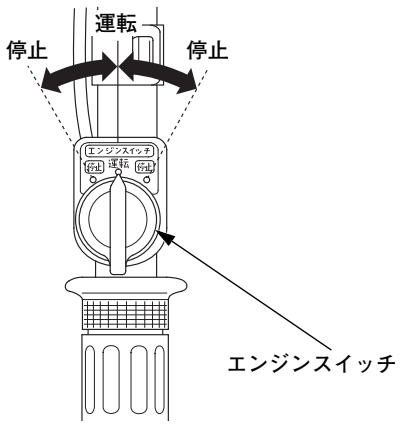


※JAT、BAT 区分（タイプ）にはローターは設定されていません。
※JAST 区分（タイプ）には「ニュースターローター DX」が同梱されています。


チョークレバー
始動グリップ
前方
右側
主クラッチレバー
爪（タイン）
側板
左側
後方
ドラッグバー（抵抗棒）

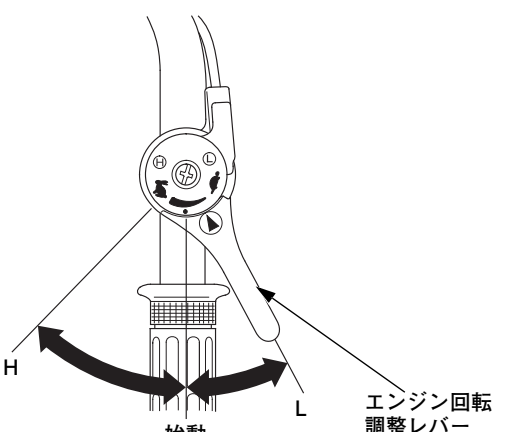
エンジンスイッチ

エンジンスイッチは、エンジンの運転、停止をするときに操作します。



エンジン回転調整レバー

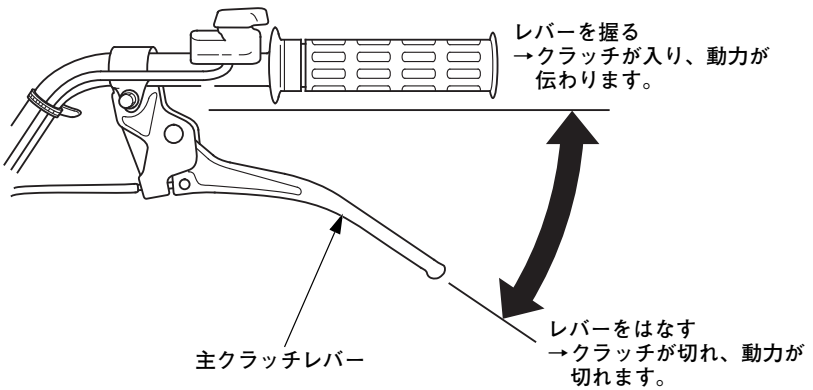
エンジンの回転を調整するものです。
エンジンの始動、運転中、停止時に操作します。



H… エンジン回転が上がります
始動 … エンジンを始動するときの位置です
L… エンジン回転が下がります

主クラッチレバー

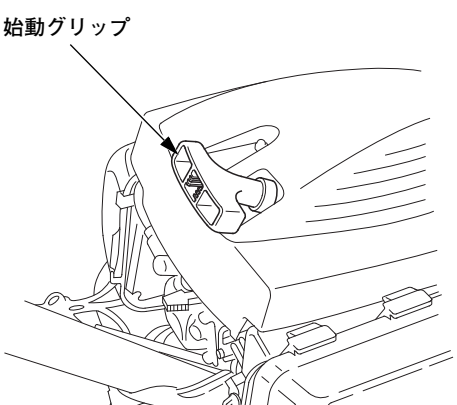
主クラッチは、車軸への動力を断接する装置です。



※BAT 区分（タイプ）は両側にクラッチレバーが付きます。

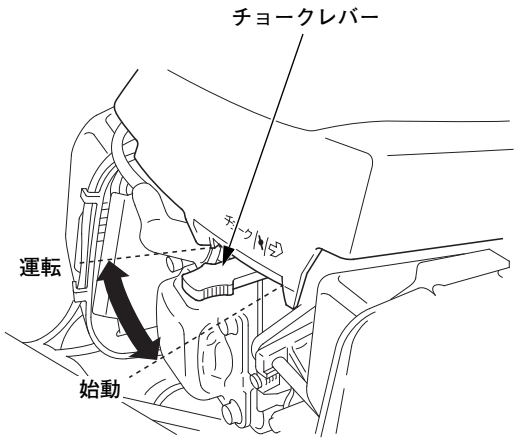
始動グリップ

エンジンを始動するときに操作します。



チョークレバー

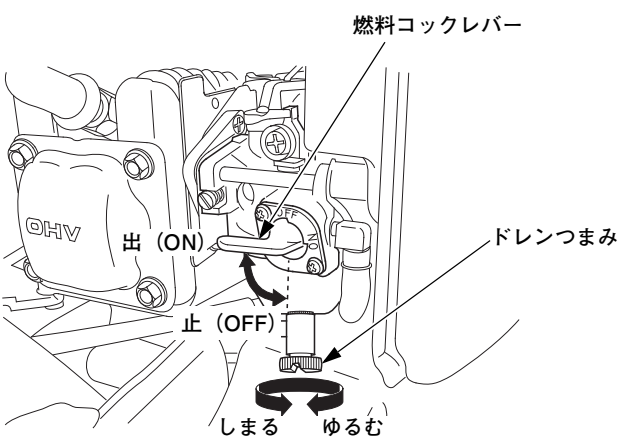
エンジンが冷えているとき、またエンジンがかかりにくいときに操作します。



燃料コックレバー、ドレンつまみ

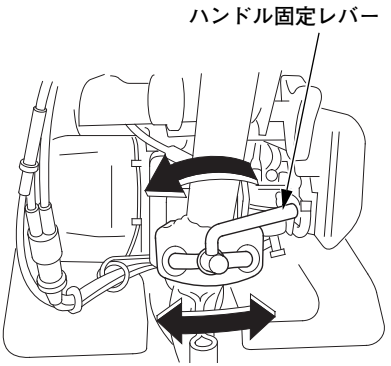
燃料コックレバーは、タンクの燃料を出したり止めたりするときに操作します。

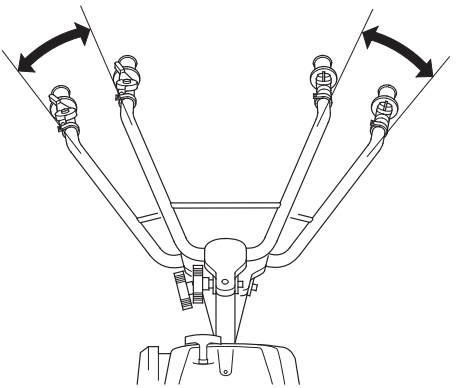
ドレンつまみは燃料を抜くときに操作します。（55 頁参照）



ハンドル固定レバー［BAT 区分（タイプ）］

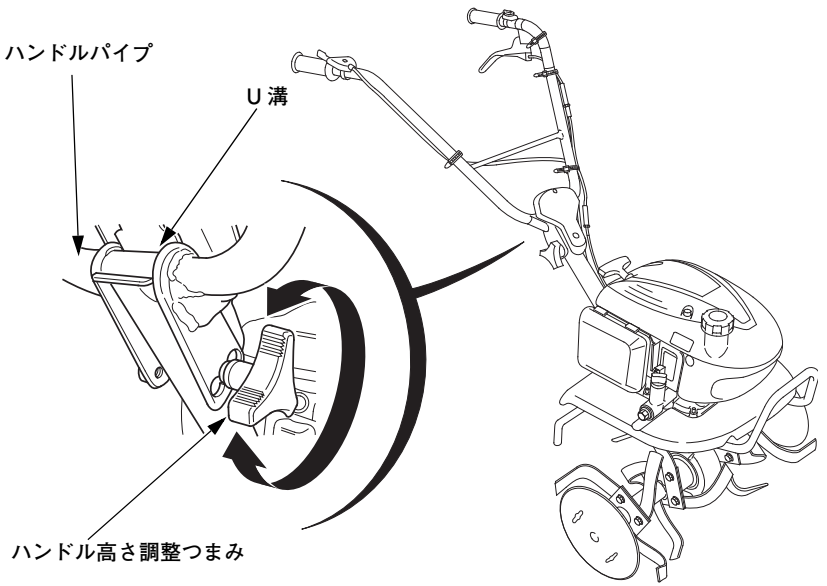
ハンドルの角度を調整するときに操作します。
（調整のしかたは 27 頁参照）





ハンドル高さ調整つまみ

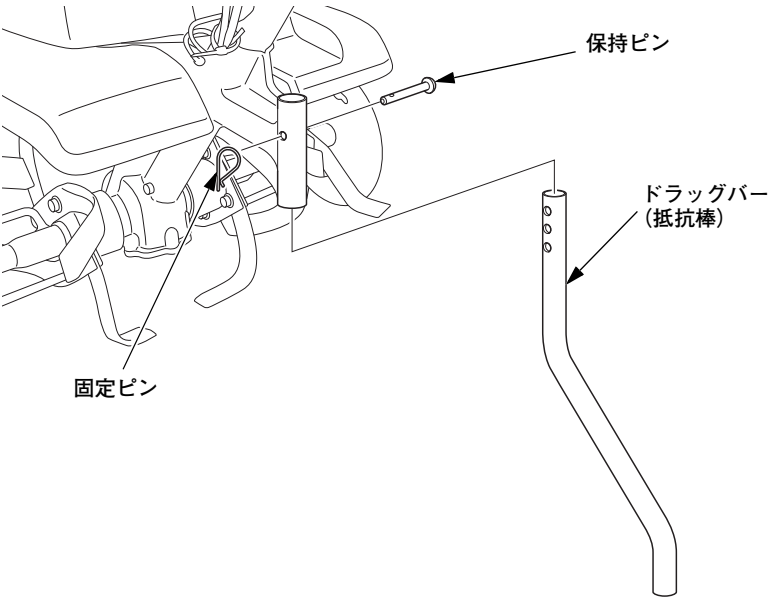
ハンドル高さは、運転者の身長や作業内容に合わせ、3 段階に調整できます。
(調整のしかたは 28 頁参照)



ヒッチボックス（作業機取付け部）、ドラッグバー（抵抗棒）

ヒッチボックスは作業機やドラッグバーを取付けるところです。

ドラッグバーの高さは、ほ場の状態に合わせて 3 段に調整できます。
（調整のしかたは 26 頁参照）



作業前に点検・調整しましょう

⚠警告
点検は平坦な場所でエンジンを水平にしエンジンを止めて行ってください。誤ってエンジンが始動しないように点火プラグキャップを外してください。不安定な場所やエンジンを始動したまま点検を行うと思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

エンジンの周りや下側に燃料、オイルの漏れがないことを確認してください。

作業前の点検

いつも安心して使用するためには日常の点検整備が必要です。忘れずに行ってください。

- 本機の周り…… 燃料の量（21、22 頁参照）、オイルの量（23 頁参照）が規定量入っていること。
  燃料の漏れ、オイルの漏れがないこと。
  エンジン周りのゴミ、ワラ等の付着がないこと。
- レバーの作動…… 引っかかりがないこと。
  スムーズに作動すること。
- 各部の締付け…… ハンドル固定レバー、ハンドル高さ調整つまみにゆるみ、がたがないこと。
  ボルト、ナットにゆるみがないこと。
- 配線、ケーブル類…… 被覆の破れ、切れがないこと。
  配線、ケーブルのはさまりがないこと。
- エンジンの始動、停止… 点火プラグキャップを点火プラグに取付け、エンジンを始動し、異音がないこと。（始動手順は 31 ～ 35 頁参照）
  エンジンスイッチで確実に停止すること。
  （停止手順は 38 ～ 40 頁参照）
- その他異常を感じたら直ちにお買いあげ販売店またはサービス店へお申しつけください。

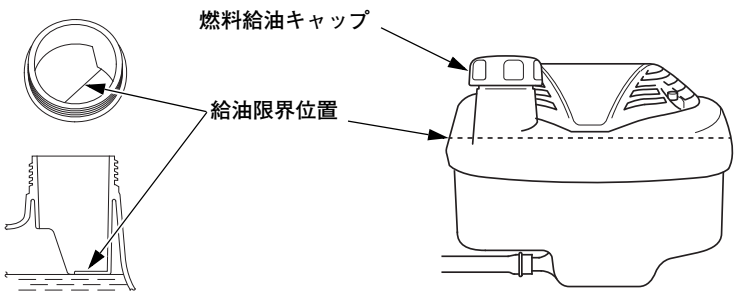
燃料の点検

⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。
ガソリンを補給するときは
- エンジンを停止してください。
- 換気の良い場所で行ってください。
- 火気を近づけないでください。
- 身体に帯電した静電気を除去してから給油作業を行ってください。静電気の放電による火花により、気化したガソリンに引火しヤケドを負うおそれがあります。
  本機や給油機などの金属部分に触れると、静電気を放電することができます。
- ガソリンはこぼさないように補給してください。万一こぼれたときは布きれなどで完全にふき取ってください。
  ガソリンをふき取った布きれなどは、火災と環境に十分注意して処分してください。
- ガソリンは注入口の口元まで入れず所定の給油限界位置を超えないように補給してください。入れすぎると燃料給油キャップからガソリンがにじみ出ることがあります。
- 傾斜地では本機がかたむきガソリンがにじみ出ることがあります。燃料の量はタンクの半分以下を目安にしてください。

点検

本機を水平にし、燃料給油キャップを外し、燃料があることを確認します。少ない場合は補給してください。（22 頁参照）



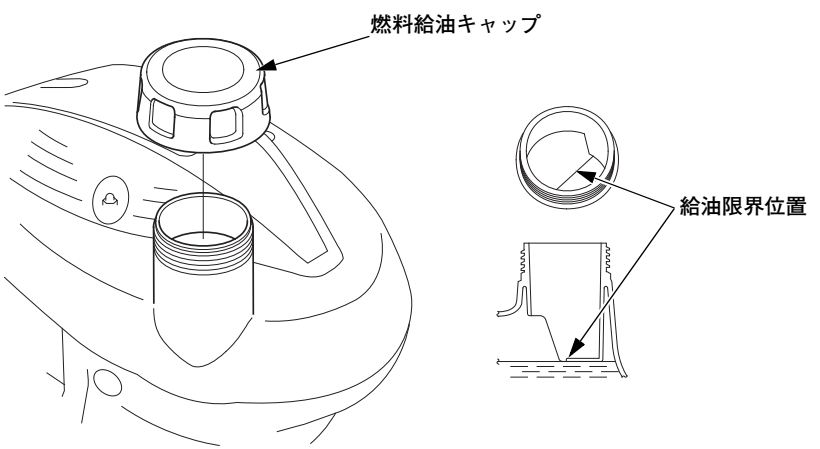
補給

使用燃料：無鉛レギュラーガソリン

1. 本機を水平にし、燃料給油キャップを外し、給油口の給油限界位置を超えないように補給してください。
   給油限界位置を超え補給すると、本機が傾斜したときに燃料給油キャップからガソリンが漏れることがあります。
2. 燃料給油キャップは補給後完全にはめ込み右方向に止まるまでいっぱいに回してください。キャップ取付け部より燃料漏れがないことを確認してください。

取扱いのポイント

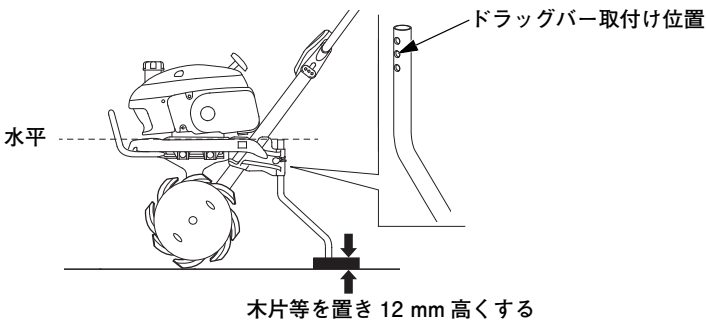
- **必ず無鉛レギュラーガソリンを補給してください。高濃度アルコール含有燃料を補給すると、エンジンや燃料系などを損傷する原因となります。**
- **軽油、灯油や粗悪ガソリン等を補給したり、不適切な燃料添加剤を使うと、エンジンなどに悪影響を与えます。**
- **ガソリンは自然に劣化しますので 30 日に 1 回、定期的に新しいガソリンと入れ換えてください。**



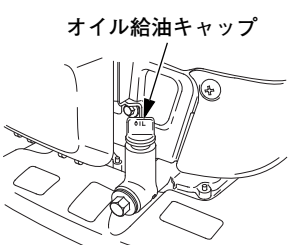
エンジンオイルの点検

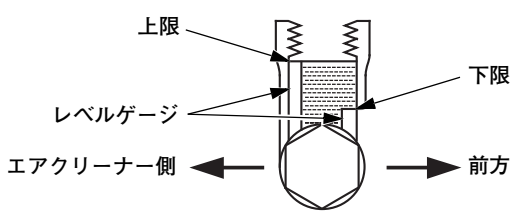
点検

1. エンジンを停止し、点火プラグキャップを外します。
2. 平坦な場所で、エンジンが水平になるように、本機の姿勢を調整します。
   - 図のように標準の耕うん爪（ローター）を取付けた状態で、ドラッグバーを二段目の位置に取付け、本機の後方を 12 mm 持ち上げた状態にするとエンジンが水平になります。



3. オイル給油キャップを外し、オイル給油口内側のレベルゲージで確認します。
   - 油面が下限に近いときには、上限までオイルを補給してください。
   - 汚れや変色が著しい場合は交換してください。（交換は 42、43 頁参照）
4. 点検後、オイル給油キャップを取付け、確実に締付けます。
5. 点火プラグキャップを点火プラグへ確実に取付けます。

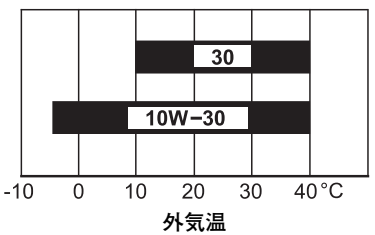




補給

1. 新しいエンジンオイルを上限まで補給します。
   こぼれたオイルは布きれなどで拭き取ってください。
2. 補給後、オイル給油キャップを取付け、確実に締付けてください。
   ・推奨オイル
   Honda 純正ウルトラ U 汎用（SAE 10W-30）、
   またはAPI分類SE級以上のSAE 10W-30オイルをご使用ください。

エンジンオイルは、外気温に応じた粘度
のものを表にもとづきお使いください。



取扱いのポイント

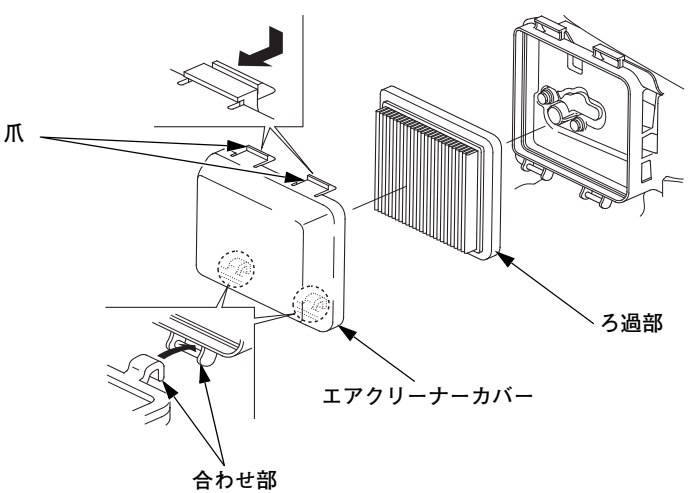
エンジンオイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。

エアクリーナー（空気清浄器）の点検

1. エアクリーナーカバーを取外します。
   エアクリーナーカバーの取外しは、爪を押しながら上部を外した後、下部の合わせ部を離して行います。
2. ろ過部の汚れ具合を確認します。
   汚れがひどい場合は、ろ過部の清掃を行ってください。（清掃方法は46 頁参照）
3. エアクリーナーカバーを取付けます。
   エアクリーナーカバーの取付けは､下部2か所の合わせ部を組付け後、上部の爪を確実に組付けて行います。

取扱いのポイント

- **エアクリーナーカバーの取付けは確実に行ってください。取付けが悪いと振動でカバーが外れることがあります。**
- **エアクリーナーカバーやろ過部を装備しなかったり、取付け方が悪いと、エンジンに悪影響を与える原因になります。**



ドラッグバー（抵抗棒）の調整

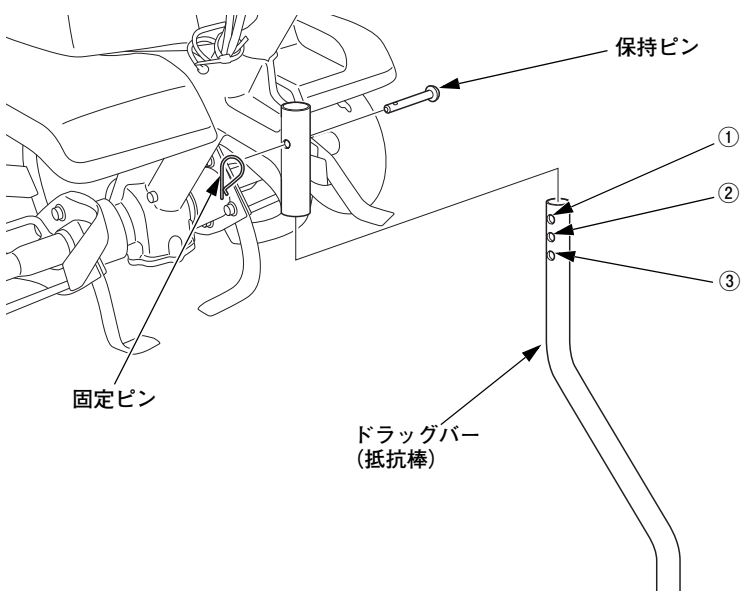
ほ場の状態によりドラッグバーの高さを調整します。
通常耕うんする場合は、ドラッグバーを②に取付けます。ほ場が硬くローターが前に進みすぎる場合は、ドラッグバーを①に取付けてください。

軟らかいほ場で、ローターが沈んで前に進まない場合は、ドラッグバーを③に取付けてください。

調整

1. エンジンを停止し、点火プラグキャップを外します。
2. 燃料給油キャップ、エンジンオイル給油キャップが確実に締まっていることを確認し、本機を前方に倒します。
3. 保持ピン、固定ピンを外し、ドラッグバーの高さを調整します。作業に合わせて 3 段に調整できます。
4. 点火プラグキャップを点火プラグへ確実に取付けます。

⚠注意
調整は必ずエンジンを停止してから行ってください。

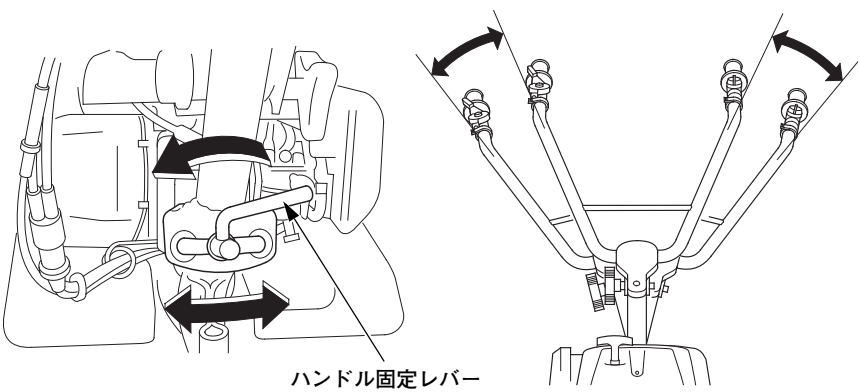


ハンドルの角度調整：（左右方向）［BAT 区分（タイプ）］

作業内容によりハンドルの角度はハンドル固定レバーをゆるめ、図のように調整することができます。

⚠注意

- **調整後、ハンドル固定レバーを確実に締付けてください。締付けがゆるいと作業中ハンドルが不意に動き思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。**
- **調整はエンジンを停止して行ってください。**



取扱いのポイント

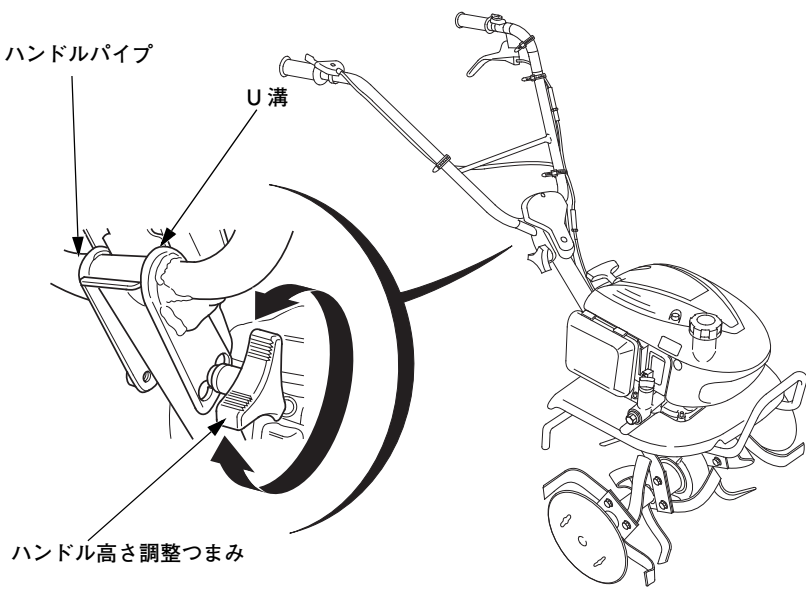
ハンドルを調整するときは、本機を平坦な場所に置いて行ってください。

ハンドル高さの調整

ハンドル高さ調整つまみをゆるめ、任意の穴へさしかえてハンドルの高さを調整します。
ハンドルの高さは３段階に調整できます。

⚠注意

- **ハンドル高さ調整つまみは確実に締付けてください。**
- **ハンドル取付け部（U 溝）にハンドルのパイプ部が確実に入っていることを確認してください。**
- **調整はエンジンを停止して行ってください。**



取扱いのポイント

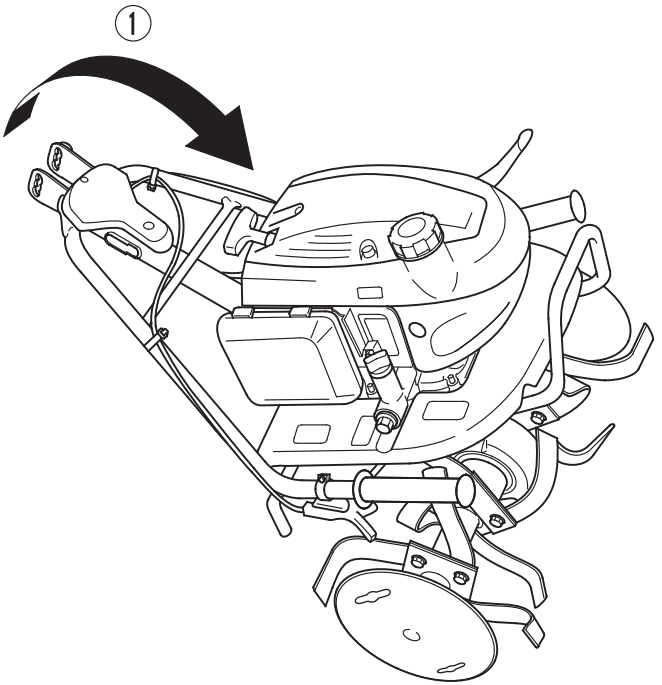
ハンドルを調整するときは、本機を平坦な場所に置いて行ってください。

ハンドルのたたみかた

ハンドルのたたみかたは前側と下側の２とおりがあります。

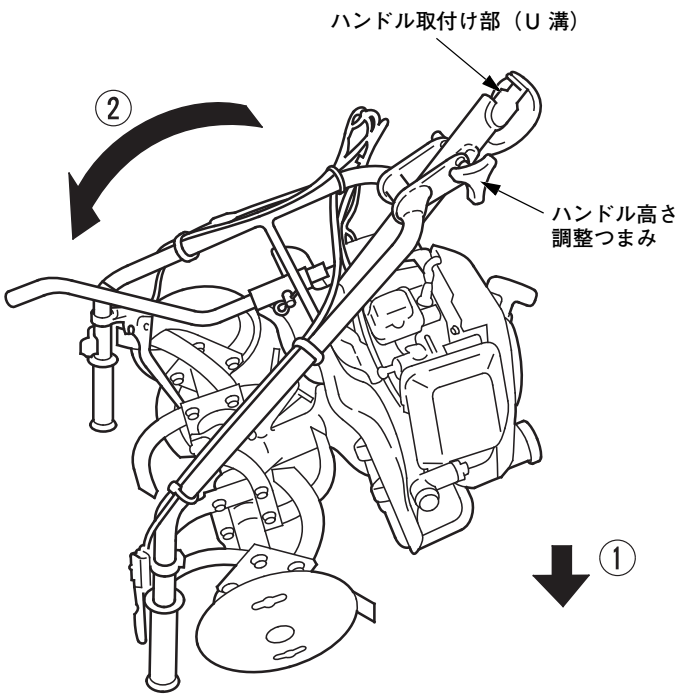
・前側にたたむ場合

1. ハンドル高さ調整つまみをゆるめて抜き取ります。
2. ハンドル取付け部（U 溝）を支点にして①の方向にハンドルを回転させるように静かに倒してたたみます。



・下側にたたむ場合

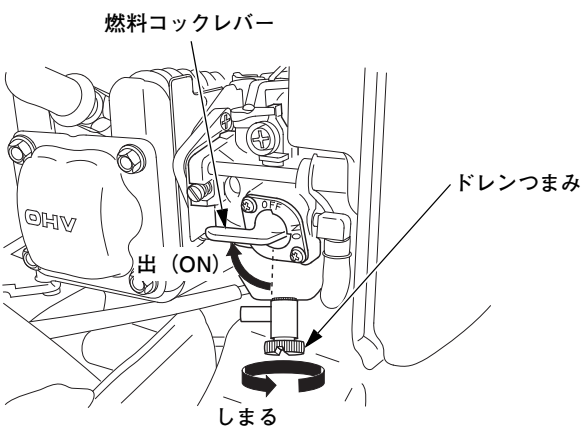
1. 燃料タンク、キャブレター内の燃料を抜きます。(55 頁参照)
2. 本機をフロントガードが接地するまで前方（①の方向）に倒します。
3. ハンドル高さ調整つまみを十分にゆるめます。
4. ハンドルを上方に引き、ハンドル取付け部（U 溝）からパイプ部を抜き、②の方向に静かに倒してたたみます。



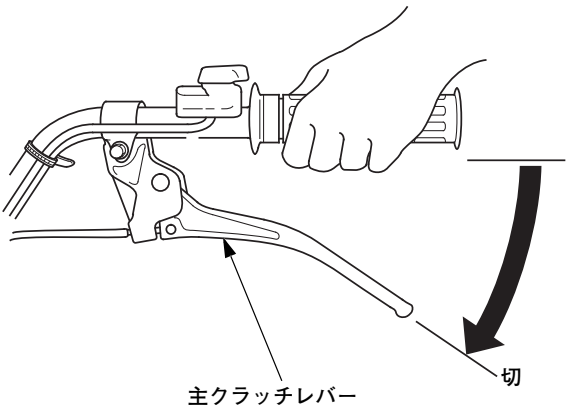
エンジンのかけかた

⚠警告
- 排気ガスには有毒な一酸化炭素が含まれています。屋内でエンジンを始動するときは換気に十分注意してください。ガス中毒を引き起こすおそれがあります。
- エンジン始動は、平坦な場所で行ってください。転倒などにより思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。
- 周りで作業をしている人がいたら周りの人に合図をしてから、始動してください。本機とぶつかるなどでケガをするおそれがあります。
- マフラーの排気方向に燃えやすいものがないことを確認してから、始動してください。火災の原因になることがあります。
- 主クラッチレバーが“切”になっていることを確認してからエンジンをかけてください。クラッチが入っていると急発進などにより思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

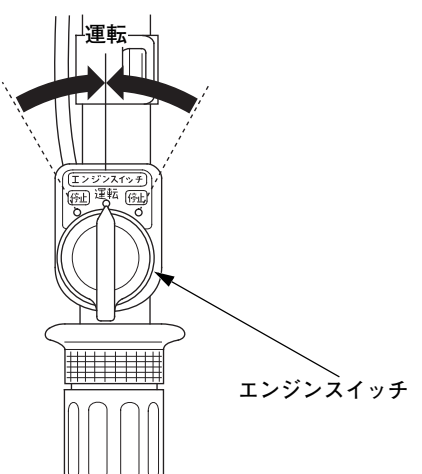
1. ドレンつまみが確実にしまっていることを確認し、燃料コックレバーを“出”（ON）の位置にします。



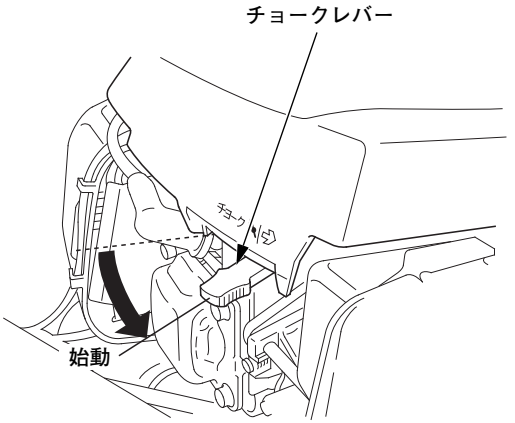
2. 主クラッチレバーが “**切**” になっていることを確認します。



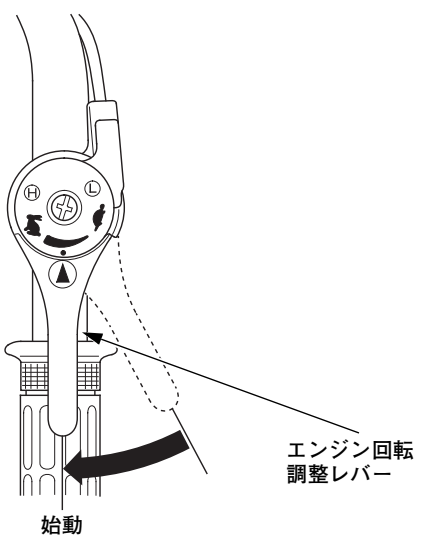
3. エンジンスイッチを “**運転**” の位置にします。



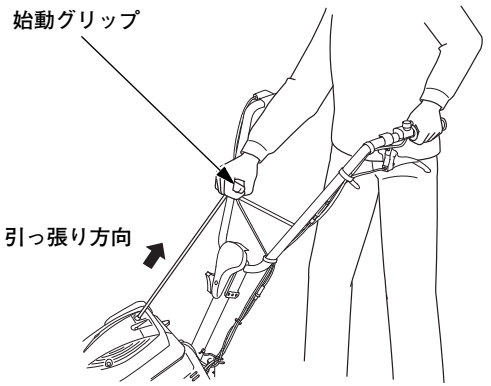
4. 寒いときやエンジンがかかりにくいときには、チョークレバーを “**始動**” の位置にします。



5. エンジン回転調整レバーを “**始動**” の位置に合わせます。



6. 始動グリップを静かに引いて、重くなるところで止めます。次に矢印の方向に強く引っ張ります。



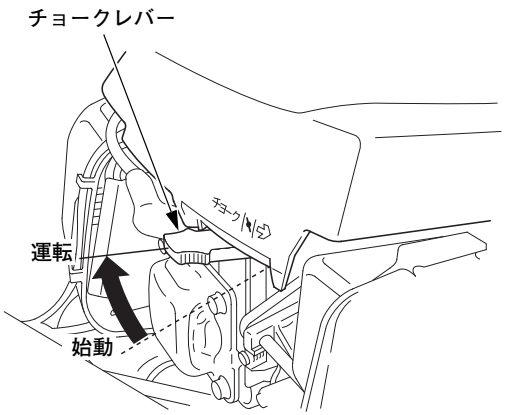
⚠注意

始動グリップを引くときは、主クラッチレバーを握らないでください。また、引っ張る方向に人や障害物がないことを確認してから行ってください。ケガをするおそれがあります。

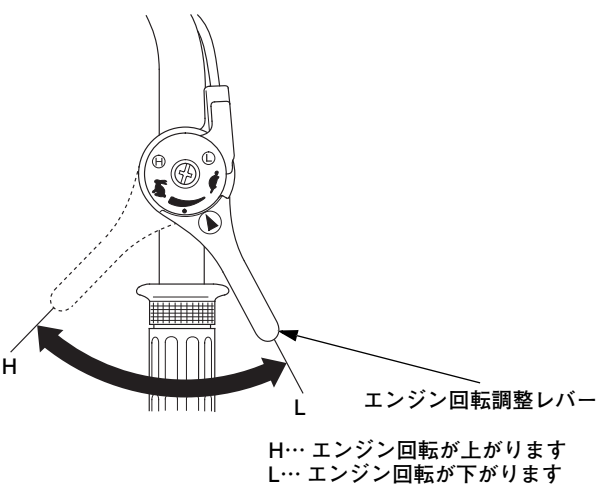
取扱いのポイント

- 始動グリップを引いたあと急に手を放さないでゆっくり戻してください。始動装置や周りの部品を破損することがあります。
- 運転中は始動グリップを引かないでください。エンジンに悪影響を与えます。

7. エンジンが始動したら、２～３分間暖機運転を行います。チョークレバーを “**始動**” にしたときは、エンジン回転が安定するのを確認しながら徐々に “**運転**” の方向に戻します。



8. エンジン回転調整レバーを調整して、適切なエンジン回転にします。



運転操作のしかた

安全な作業を行うために、作業をする前に必ず “安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう” （4 頁参照）の項目をよくお読みになり十分に理解して行ってください。

⚠注意

本機の操作を行うときは、本機後方中央に立ち、必ず両手でハンドルを持ってください。バランスをくずし、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

取扱いのポイント

使用中に音、におい、振動などで異常を感じたら直ちにエンジンを停止し、お買いあげ販売店またはサービス店にお問い合わせください。

運転

主クラッチレバー

主クラッチレバーを操作することにより、本機の走行および停止を行います。

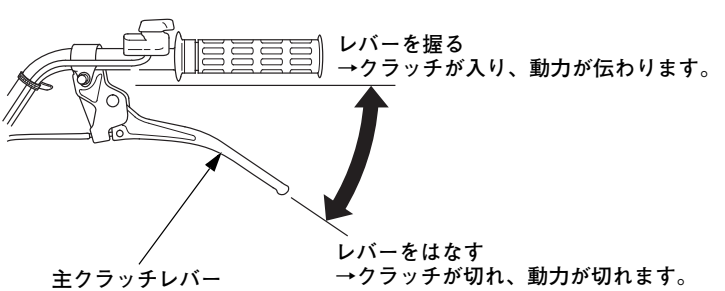
主クラッチレバーの操作は、静か（スムーズ）に行ってください。エンジン回転も低くしておきます。急激な操作を行うと、機体が飛び出したり、エンジンが停止したりします。

走行

主クラッチレバーを握る→クラッチがつながり、本機が走行します。

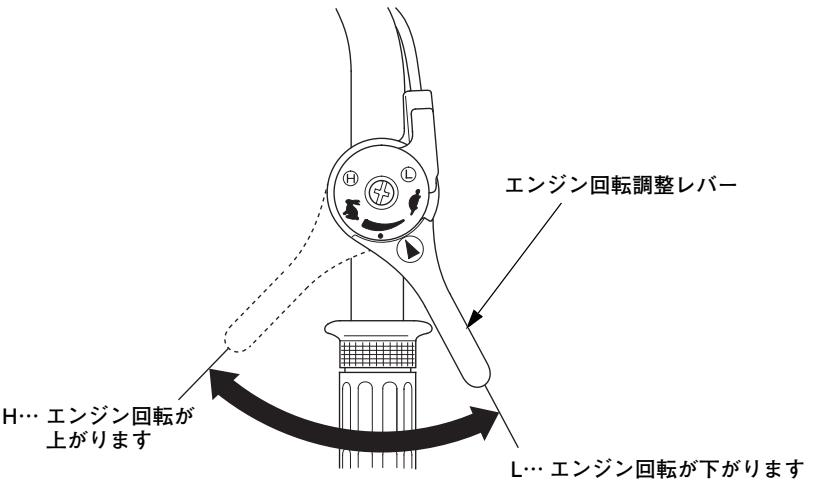
停止

主クラッチレバーを放す→クラッチが切れ、本機が停止します。



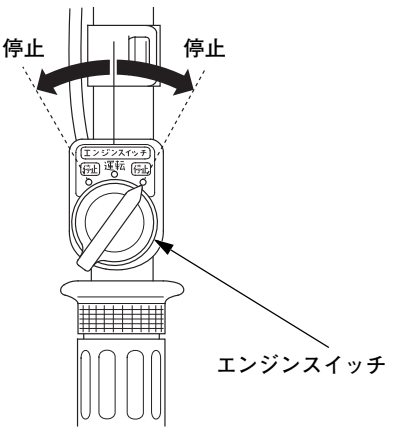
エンジン回転調整レバー

エンジンの回転数を作業に応じて設定してください。

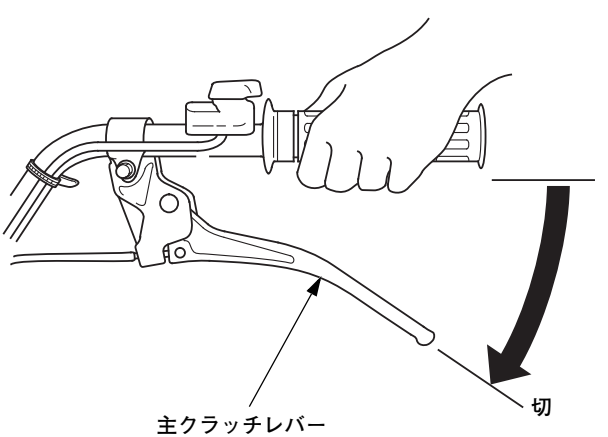


エンジンのとめかた

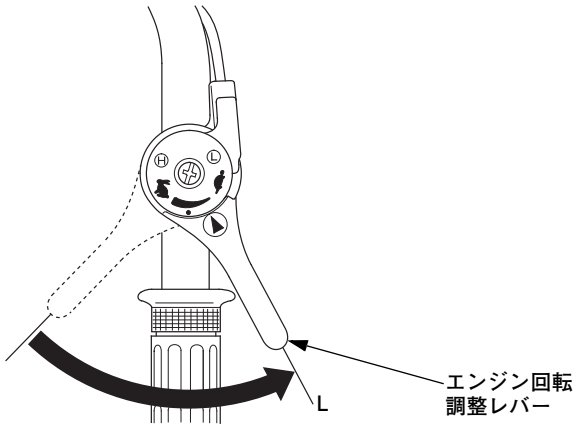
緊急停止の場合
エンジンスイッチを “ **停止** ” に合わせます。



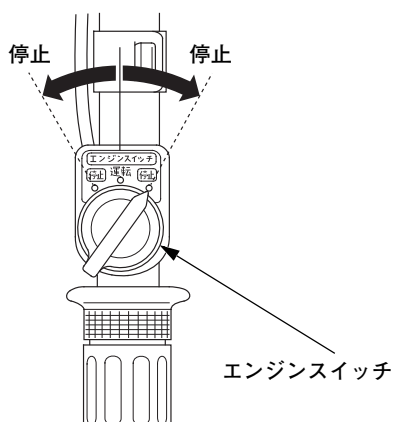
通常停止の方法
1. 主クラッチレバーを “ **切** ” にします。



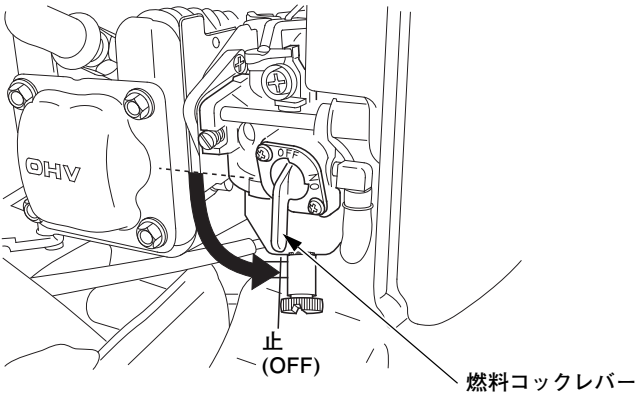
2. エンジン回転調整レバーを “L” の方向に戻し、エンジン回転を下げます。



3. エンジンスイッチを “停止” に合わせます。



4. 燃料コックレバーを “止” (OFF) に合わせます。



定期点検を行いましょう

お買いあげいただきました本機をいつまでも安全に調子よく、長持ちさせるために定期点検を受けましょう。

定期点検表

点検項目 ＼ 点検時期（1）		稼働期前	作業前点検	1ヶ月目または初回20時間運転目	3ヶ月毎または50時間運転毎	6ヶ月毎または100時間運転毎	1年に1回または300時間運転毎	参照頁
エンジンオイル	点検 - 補給		○					23
	交換	○		○		○（2）		42
エアクリーナー	点検		○					25
	清掃				○（3）			46
	交換						○	46
変速機オイル	点検	○						44
本機周りの点検	点検		○					20
主クラッチレバーの作動	調整		○					20
レバー類の作動	点検		○					20
各部の締付け	点検		○					20
エンジンの始動、停止	点検		○					20
配線、ケーブル類	点検		○					20
点火プラグ	点検 - 調整					○		47
	交換						○	47
エンジン回転調整ケーブル	点検 - 調整						○	48
クラッチケーブル	調整			○		○		49
アイドル回転	点検 - 調整						○（4）	－
クラッチシュー	点検						○（4）	－
吸入、排気弁すき間	点検 - 調整						○（4）	－
燃焼室	清掃	300時間運転毎（4）（5）						－
燃料タンク及びフィルター	清掃	○（4）				○（4）		－
燃料チューブ	点検	2年毎（必要なら交換）（4）						－

（1） 点検時期は、表示の期間毎または運転時間毎のどちらか早い方で実施してください。
（2） 高負荷、高温で使用した場合、エンジンオイルは50時間毎に交換してください。
（3） ホコリの多い所で使用した場合、エアクリーナーの清掃は10時間運転毎または1日1回行ってください。
（4） 適切な工具と整備技術を必要としますので、お買いあげ販売店またはサービス店で実施してください。
（5） 表示時間を経過後すみやかに実施してください。

点検・整備のしかた

作業を始める前に、作業内容を確認ください。ご自身で実施できない場合、お買いあげ販売店またはサービス店にご相談ください。

⚠警告

点検、整備は平坦な場所で必ずエンジンを停止し、誤ってエンジンが始動しないように点火プラグキャップを外して行ってください。

エンジンオイルの交換

エンジンオイルが汚れていると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル容量を守りましょう。

⚠注意

- **エンジン停止直後はエンジン本体やマフラーなどの温度、また油温も高くなっていますので冷えてから行ってください。ヤケドをするおそれがあります。**

取扱いのポイント

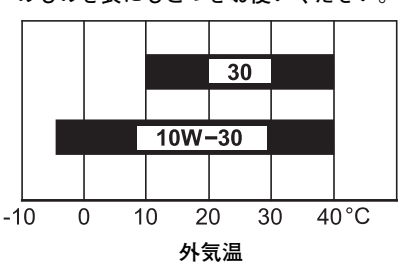
本機を横倒しにしないでください。ガソリンやオイルがこぼれたり、始動性が悪くなったり、始動後に白煙を発生したりすることがあります。

17 mm のレンチ類をご用意ください。レンチ類は装備されていません。

《推奨オイル》

Honda 純正ウルトラ U 汎用（SAE 10W-30）、または API 分類 SE 級以上の SAE 10W-30 オイルをご使用ください。

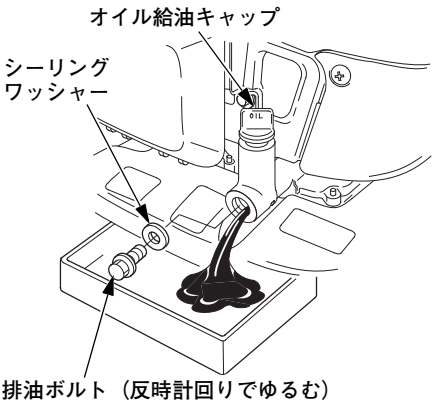
エンジンオイルは、外気温に応じた粘度のものを表にもとづきお使いください。



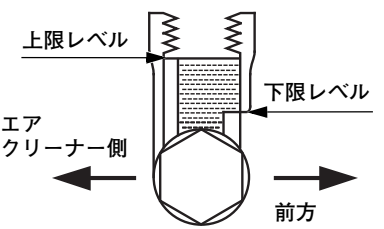
《エンジンオイル量》 0.30 L

交換のしかた

1. オイル給油キャップ、排油ボルトおよびシーリングワッシャーを外してオイルを抜きます。
2. 排油ボルトをきれいに洗い、新品のシーリングワッシャーを使用し、確実に締付けます。



3. 本機を水平（23 頁参照）にしてエンジンオイルを給油キャップのレベルゲージで確認しながら上限まで注入します。
   こぼれたオイルは布きれなどで拭き取ってください。
4. 注入後、オイル給油キャップをゆるまないように手で確実に締付けます。



取扱いのポイント

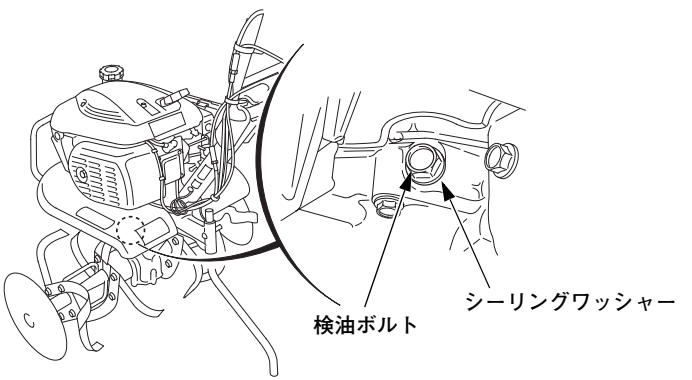
- **オイルは使用しなくても自然に劣化します。定期的に点検・交換を行いましょう。**
- **必ずエンジンを水平にし、オイルを給油してください。**
- **交換後のオイルはゴミの中や地面、排水溝などに捨てないでください。処理方法は法令で義務付けられています。法令に従い適正に処理してください。不明な場合は購入先にご相談のうえ処理してください。**

変速機オイルの点検

点検

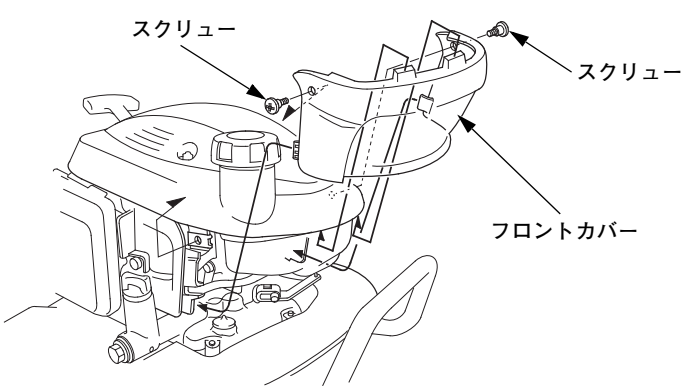
本機を水平にして検油ボルトを外し、検油ボルト取付け部からオイルがにじみ出てくることを確認します。

- オイルがにじみ出る場合、検油ボルトをきれいに洗い、新品のシーリングワッシャーを使用し、確実に締付けます。
- オイルがにじみ出ない場合、補給してください。



補給

1. スクリューを外し、フロントカバーを取外します。

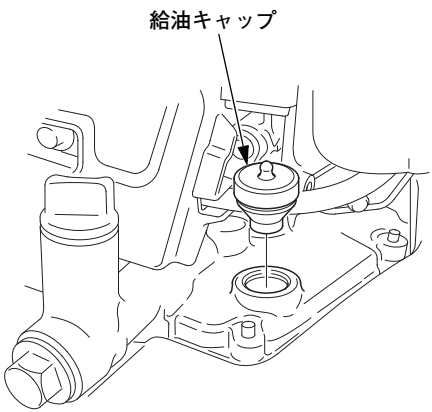


2. 給油キャップを外し、新しいオイルを検油ボルト取付け部からにじみ出てくるまで補給します。

指定オイル：Honda 純正ウルトラ LEO（SAE 0W-20）
または API 分類 SL 級相当の SAE 0W-20 オイルをご使用ください。

変速機オイル量： 0.90 L

3. 検油ボルトをきれいに洗い、新品のシーリングワッシャーを使用し、確実に締付けます。
4. 給油キャップを完全に取付けます。



エアクリーナー（空気清浄器）の清掃・交換

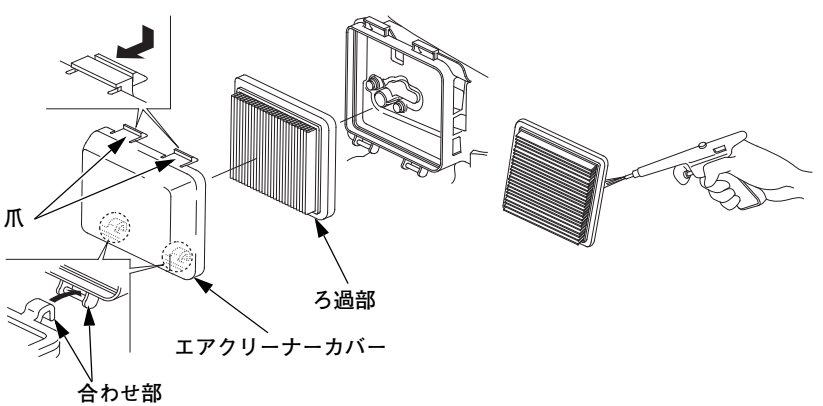
エアクリーナー（空気清浄器）が目詰まりをすると出力不足になり、燃料消費が多くなるので定期的に清掃しましょう。

清掃のしかた

1. エアクリーナーカバーを取外し、ろ過部を取外します。
   エアクリーナーカバーの取外しは、爪を押しながら上部を外した後、下部の合わせ部を離して行います。
2. ろ過部は内側から圧縮空気を吹きつけるか、または軽く叩いて汚れを落とします。
   ・著しく汚れがひどい場合は交換してください。
3. エアクリーナーカバーを取付けます。
   エアクリーナーカバーの取付けは､下部2か所の合わせ部を組付け後、上部の爪を確実に組付けて行います。

取扱いのポイント

- **エアクリーナーカバーの取付けは確実に行ってください。締付けが悪いと振動でカバーが外れることがあります。**
- **エアクリーナーカバーやろ過部を装備しなかったり、取付け方が悪いと、エンジンに悪影響を与える原因になります。**

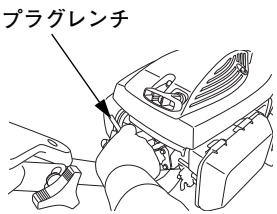


点火プラグの点検・調整・交換

電極が汚れたり、火花すき間が不適当な場合、完全な火花が飛ばなくなりエンジン不調の原因になります。

⚠注意

エンジン停止直後はマフラーや点火プラグなどは非常に熱くなっています。ヤケドをしないよう作業はエンジンが冷えてから行ってください。



清掃のしかた

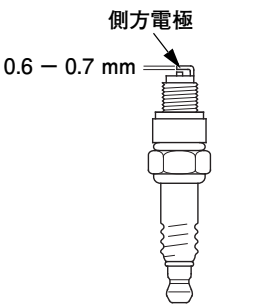
1. エンジンを停止し、点火プラグキャップを取外します。
2. プラグレンチで点火プラグを取外します。
3. 点火プラグを清掃します。
   点火プラグの清掃はプラグクリーナーを使用するのが最も良い方法です。お買いあげ販売店またはサービス店をご利用ください。
   プラグクリーナーが無いときは、針金かワイヤーブラシで汚れを落としてください。

調整のしかた

4. 側方電極をつめ、火花すき間を下記寸法に調整します。
   火花すき間：0.6 − 0.7 mm

《標準プラグ》

C4HSB (NGK)　U14FS-UB (DENSO)



取扱いのポイント

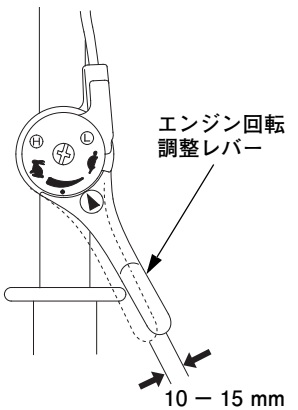
- **故障の原因となるので標準以外の点火プラグを使用しないでください。**
- **点火プラグの取付けは、ネジ山を壊さないように、まず指で軽くいっぱいまでねじ込み、次にプラグレンチで確実に締付けてください。**
- **点検・清掃・調整・交換後は点火プラグキャップを確実に取付けてください。確実に取付けないとエンジン不調の原因になります。**

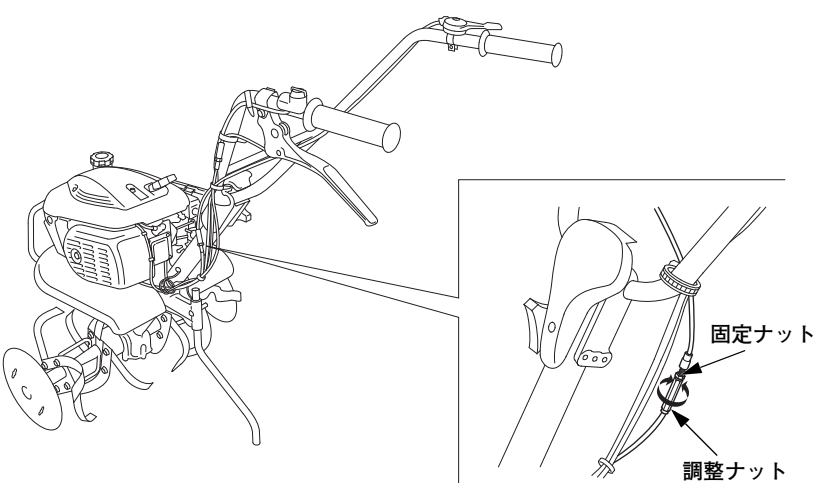
エンジン回転調整ケーブルの調整

エンジン回転調整ケーブルの調整が完全でないと、エンジン不調の原因になることがあります。

調整のしかた

1. エンジン回転調整レバーを “L” の位置にします。レバーの遊びが先端部で下記寸法になるように調整します。
   遊び：10 − 15 mm
2. 調整は、固定ナットをゆるめ調整ナットを回して行ってください。
3. 調整後、固定ナットを確実に締付けてください。



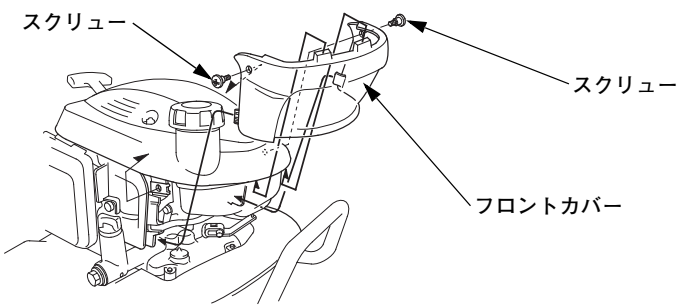


主クラッチケーブルの調整

主クラッチケーブルの調整が完全でないと、主クラッチの切れが悪くなったりクラッチがすべったりします。

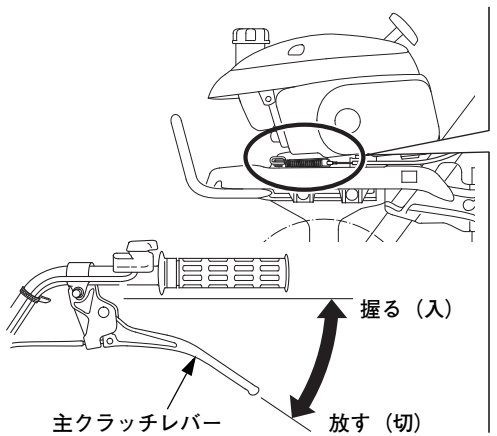
調整のしかた

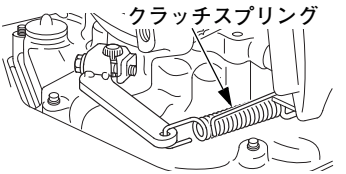
1. ハンドル高さを中央の位置にします。(28 頁参照)
2. ケーブルバンドが正しく付いていることを確認してください。(64 頁参照)
3. スクリューを外し、フロントカバーを取り外します。



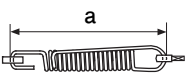
4. 主クラッチレバーを操作し、“ 切 ” の位置と “ 入 ” の位置にしたときのスプリング長を測定します。
5. 主クラッチレバーを “ 入 ” の状態にしたときにクラッチスプリングの伸び量が下記寸法になるように調整します。

伸び量：A（入）－ a（切）＝ 2±0.5 mm

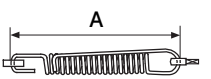




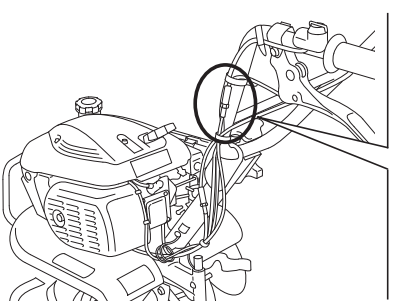
《主クラッチレバー “ 切 ”》

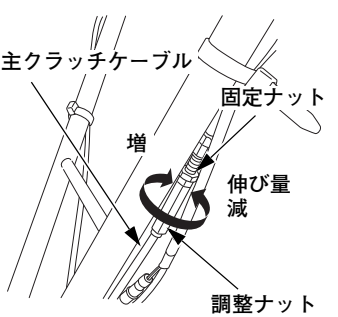


《主クラッチレバー “ 入 ”》



6. 調整は、固定ナットをゆるめ調整ナットを回して行います。
調整後、固定ナットを確実に締付けてください。





耕うん爪（ローター）の点検・交換

⚠注意

耕うん爪の取外し、取付けを行うときは、皮手袋などの丈夫な手袋をしてください。ケガをするおそれがあります。

取扱いのポイント

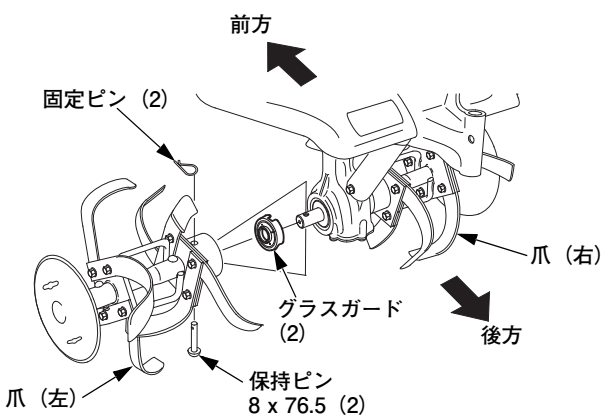
本機を横倒しにしないでください。ガソリンやオイルがこぼれたり、始動性が悪くなったり、始動後に白煙を発生したりすることがあります。

点検のしかた

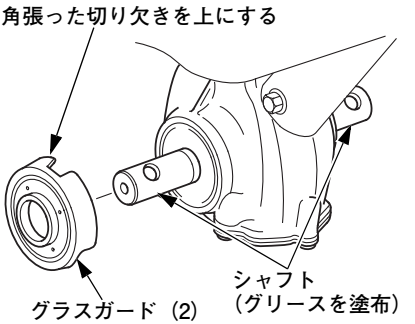
1. 耕うん爪の損傷、曲がりがないことを確認してください。もし異常があったときは交換してください。
2. 耕うん爪軸の保持ピン、固定ピンに脱落、変形がないことを確認してください。必要であれば新しいピンと交換してください。
   保持ピンは、石のかみ込みなどの異常な負荷が加わったときに、本機の損傷を防ぐために折れるしくみになっています。

交換のしかた

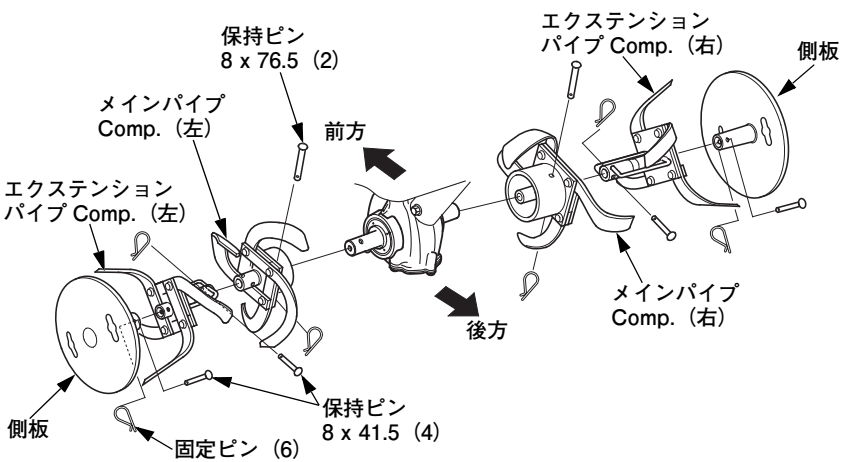
1. エンジンを停止し、点火プラグキャップを外します。
2. エンジンオイル給油キャップ、燃料給油キャップが確実に締まっていることを確認し、本機を前側に静かに倒します。（フロントガードが地面に接地した状態）
3. 固定ピン、保持ピン 8×76.5 を外し、左右の爪（タイン）およびグラスガードを外します。



4. シャフト部の汚れを拭き取り、外周にグリースを塗布します。
5. 左右のシャフト部にグラスガードを取付けます。



6. メインパイプ Comp.、エクステンションパイプ Comp.、側板を保持ピン8×41.5、固定ピンで組立て、左右のシャフト部に保持ピン8×76.5、固定ピンで取付けます。
“L” の刻印のあるものを左側、“R” の刻印のあるものを右側に取付けます。



7. 点火プラグキャップを点火プラグへ確実に取付けます。

取扱いのポイント

メインパイプ Comp.、エクステンションパイプ Comp.、側板は Honda 純正部品を使用してください。

使用後の手入れ

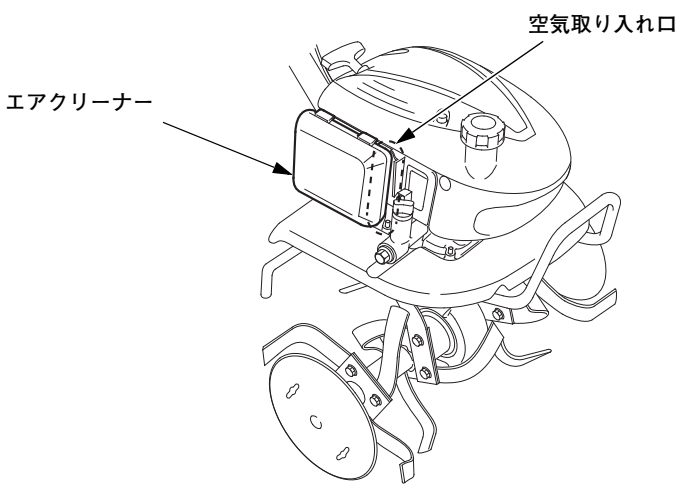
⚠注意
エンジン停止直後はエンジン本体やマフラーなどの温度、また油温も高くなっていますので冷えてから行ってください。ヤケドをするおそれがあります。

1. 本体やローター部分についた土、わら、草や汚れなどを落としてください。

⚠注意
草や木の葉がエンジンの周囲に付着したままにしないでください。火災を起こす可能性があります。

2. エアクリーナーについた土やほこりを落としてください。

取扱いのポイント
洗車する場合はエアクリーナーの空気取入れ口や電装部品、エンジン周りに水がかからないように注意してください。水がかかると故障の原因となります。



長期間使用しないときの手入れ

長期間運転しない場合、または作業が終わり長期間格納する場合は次の手入れを行ってください。
30 日以上使用しないときは、燃料タンクとキャブレター内の燃料を抜いてください。
・燃料を抜かないと、ガソリンが劣化して次回使用時に始動困難となり、故障の原因となります。

⚠警告
ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。
ガソリンを抜くときは
- **換気の良い場所で行ってください。**
- **火気を近づけないでください。**
- **ガソリンはこぼさないようにしてください。万一こぼれたときは、布きれなどで完全にふき取り火災と環境に注意して処分してください。**

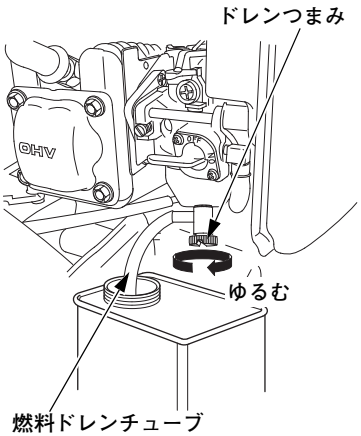
⚠注意
- **手入れを行う場合は、平坦な場所に本機を置き、エンジンを停止してください。**
  誤ってエンジンがかからないように点火プラグキャップを外して行ってください。
- **エンジン停止直後は、エンジン本体やマフラーなどの温度、また油温が高くなっています。十分に冷えてから手入れを行ってください。ヤケドをするおそれがあります。**

1. 本機各部の清掃を行います。

2. 燃料タンク、キャブレター内の燃料を下記の要領で抜きます。

抜きかた

1) 同梱部品の燃料ドレンチューブをキャブレタードレン部に取付けます。
2) 燃料コックレバーを“出”（ON）にします。
3) キャブレターのドレンつまみ（燃料排出用つまみ）を１～２回転ゆるめ、キャブレターと燃料タンク内の燃料を抜きます。燃料は適切な容器で受けてください。
4) 完全に燃料が抜けたらドレンつまみを確実にしめます。
5) 燃料コックレバーを“止”（OFF）にします。
6) キャブレタードレン部に取付けた燃料ドレンチューブを取外します。
   ・取外した燃料ドレンチューブは、保管してください。



3. エアクリーナーを清掃します。（清掃方法は 46 頁参照）
4. 始動グリップを重くなるまで引きます。（エンジンバルブが閉じ燃焼室内にほこり等が入らない状態になります。）
5. クラッチレバーを“切”にします。
6. チョークレバーを“始動”の位置にします。
7. シートなどをかけ、風通しのよい湿気の少ない所に保管してください。

取扱いのポイント

- **本機を水平の状態にして平坦で安定した場所で保管してください。水平以外の状態で本機を保管するとエンジンがかかりにくくなることがあります。**
- **次回使用時は、新鮮なガソリンを入れてください。**

故障のときは

まずご自身で次の点検を行い、その上でなお異常があるときは、むやみに分解しないでお買いあげ販売店またはサービス店へお申しつけください。

始動しないときは次の点を確かめましょう

1. 始動方法は取扱説明書通りですか？（31 ～ 35 頁参照）
2. ガソリンはありますか？（21 頁参照）
3. エンジンオイルは上限までありますか？（23 頁参照）
4. 点火プラグは汚れ、濡れていませんか、また火花すき間は適正ですか？（47 頁参照）
   ・点火プラグの清掃や火花すき間の調整が正しく行えない場合、新しい点火プラグと交換してください。

少し時間をおいてもう一度確めましょう

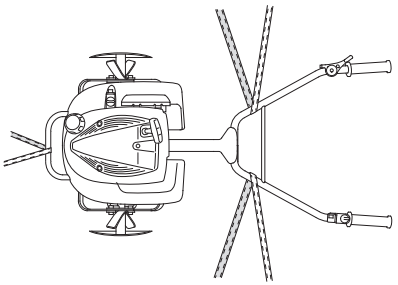
クラッチが作動しない時は次の点を確かめましょう

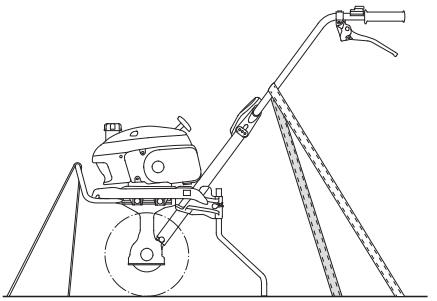
・主クラッチケーブルの調整方法が取扱説明書通りですか？(49頁参照)

車への積載のしかた

車の荷台への積載

1. 燃料タンク、キャブレターのガソリンを抜きます（抜きかたは 55 頁参照）
2. 本機を車の荷台に積載します。《本機を水平に積載》
3. ロープなどで固定します。本機が変形するような過大な荷重でロープを締付けないでください。





主要諸元

名称		F220K1			
型式		ホンダ F220			
区分		JT	JAT	JAST	BAT
機体寸法	全長	1,115 mm			
	全幅	585 mm	540 mm		
	全高	975 mm	975 mm※1		
全装備質量（重量）		27 kg	20 kg※2		
エンジン	名称	GXV57T			
	形式	空冷 4 ストローク単気筒（OHV）			
	内径×行程	45.0 mm×36.0 mm			
	総排気量	57.3 cm^3			
	連続定格出力／回転速度	1.0 kW (1.4 PS)/4,000 rpm			
	エンジン最大出力／回転速度 (SAE J1349 に準拠 ※3)	1.5 kW (2.0 PS)/4,800 rpm			
	使用燃料	無鉛レギュラーガソリン			
	燃料タンク容量	0.67 L			
	エンジンオイル容量	0.30 L			
	点火方式	トランジスタマグネト点火			
	標準点火プラグ	(DENSO) U14FS-UB (NGK) C4HSB			
	始動方式	リコイルスターター			
主クラッチ方式		シュークラッチ			
変速段数		前進 1 段			

※1：ローター（φ280 mm）装着時の数値です。
※2：ローター未装着時の数値です。
※3：ここに表示したエンジン出力は SAE J1349 に準拠して 4,800 rpm（エンジン最大出力）で測定された代表的なエンジンのネット出力値です。量産エンジンの出力はこの数値と変わることがあります。完成機に搭載された状態での実出力値はエンジン回転数、使用環境、メンテナンス状態やその他の条件により変化します。

諸元は予告なく変更することがあります。

同梱部品およびハンドルの組立てかた

次の手順と要領で同梱部品を組付けてください。
なお、説明に使用しているイラストが一部実機と異なる場合がありますが、取付け手順と要領は同じですのでご了承ください。

⚠注意

取付け作業は必ず手袋を着用して２人で行ってください。本機が転倒し思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。作業をする間、１人は本機が倒れないようにささえてください。

取扱いのポイント

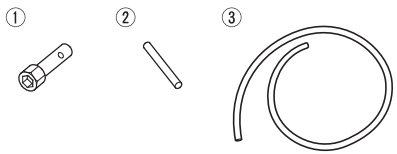
本機を横倒しにしないでください。ガソリンやオイルがこぼれたり、始動性が悪くなったり、始動後に白煙を発生したりすることがあります。

JAST 区分（タイプ）の「ニュースターローター DX」については、「ニュースターローター DX」に同梱された説明書に従い組付けてください。

同梱部品リスト
[全区分（タイプ）共通]

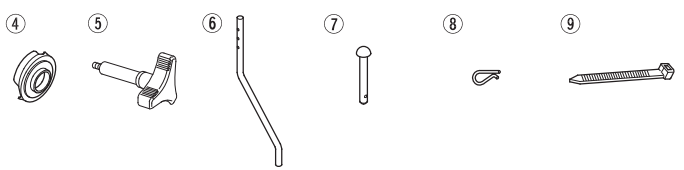
付属工具（お客様にお渡しください）

No.	部　品　名	個数	使 用 方 法
①	プラグレンチ	1	点火プラグの点検・整備のときに使用 使用方法は 47 頁参照
②	プラグレンチハンドル	1	
③	燃料ドレンチューブ	1	キャブレターから燃料を抜くときに使用 使用方法は 55 頁参照



組付部品

No.	部　品　名	個数	組　付　け
④	グラスガード	2	62 頁参照
⑤	ハンドル高さ調整ツマミ	1	63 頁参照
⑥	ドラッグバー	1	63 頁参照
⑦	保持ピン（7×48）	1	
⑧	固定ピン	1	
⑨	ケーブルバンド	2	64 頁参照

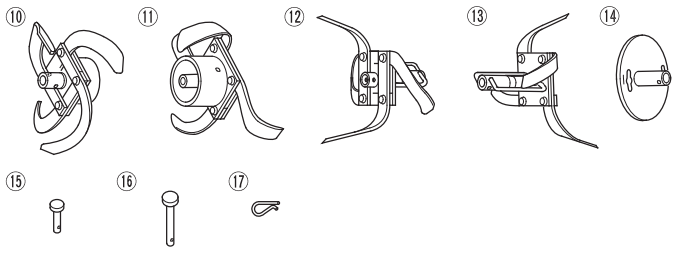


⑧：JT 区分（タイプ）は、⑰と合わせ合計 7 個あります。

[JT 区分（タイプ)]

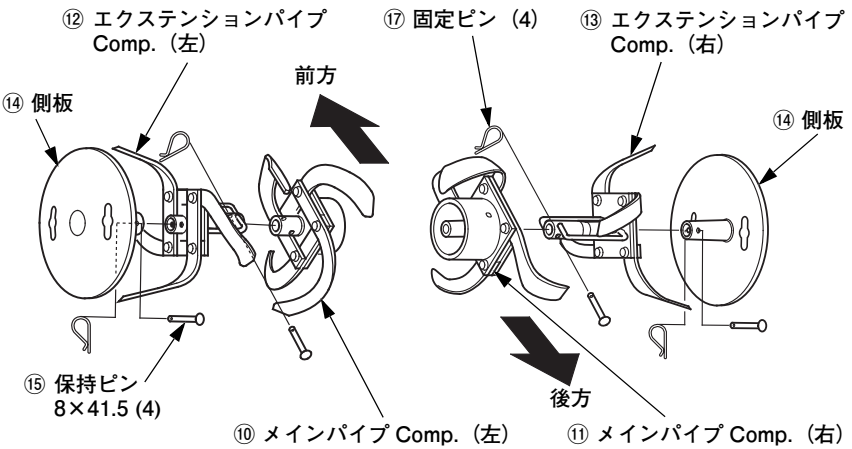
組付部品

No.	部　品　名	個数	組　付　け
⑩	メインパイプ Comp.（左）	1	62 頁参照
⑪	メインパイプ Comp.（右）	1	
⑫	エクステンションパイプ Comp.（左）	1	
⑬	エクステンションパイプ Comp.（右）	1	
⑭	側板	2	
⑮	保持ピン（8×41.5）	4	
⑯	保持ピン（8×76.5）	2	
⑰	固定ピン	6	

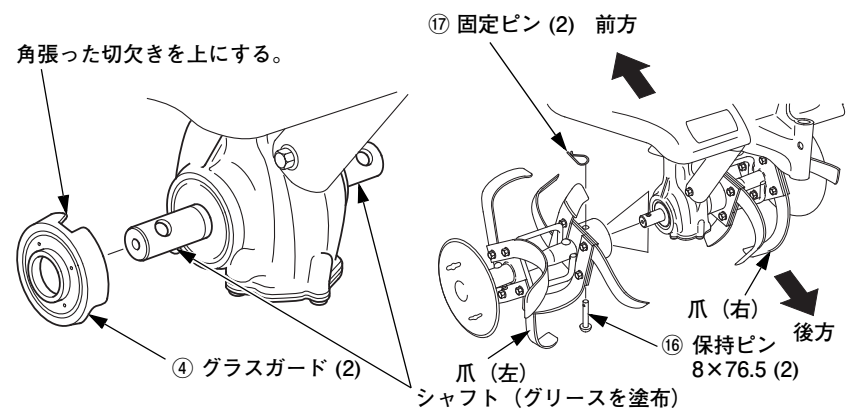


グラスガード、タイン［JT 区分（タイプ）］

1. メインパイプ Comp.、エクステンションパイプ Comp.、側板を、保持ピン 8×41.5、固定ピンで図のように組立てます。
   ・“L” の刻印のあるものは左側、“R” の刻印のあるものは右側に組付けます。

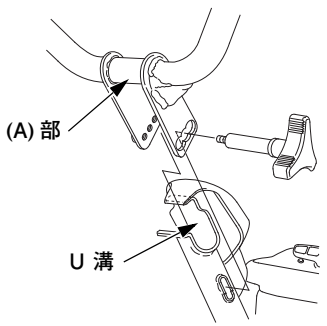


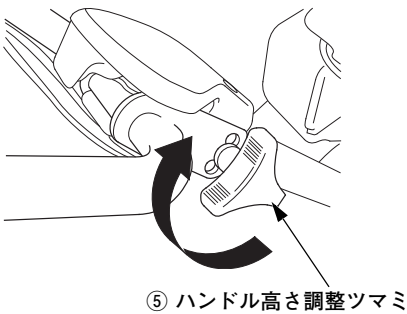
2. シャフトの外周にグリースを塗布し、グラスガードを取付け、左右の爪（タイン）を保持ピン 8×76.5 と固定ピンで本機に取付けます。
   ・グラスガードの角張った「切欠き」を上にして取付けます。
   ・本機が倒れないように支えながら、爪（タイン）小組を取付けます。



ハンドル

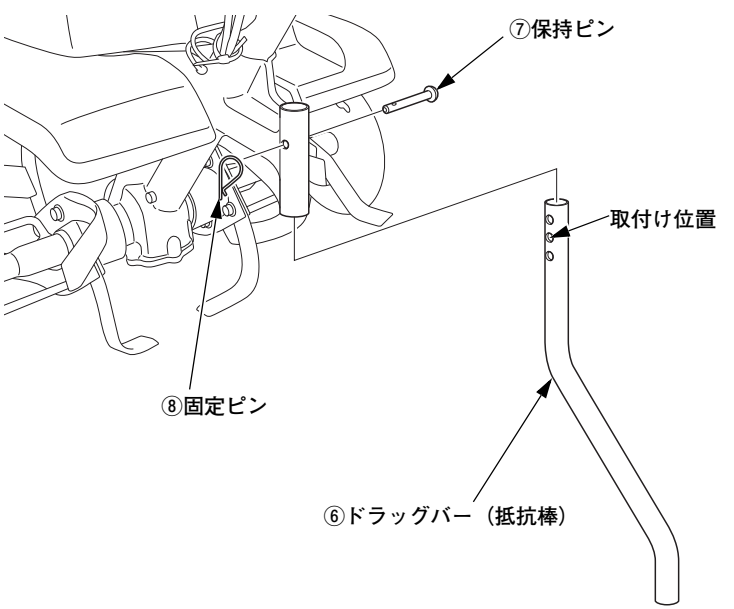
図のように U 溝にハンドルの (A) 部を合わせて取付け、ハンドル高さ調整ツマミで確実に締付けます。





ドラッグバー（抵抗棒）

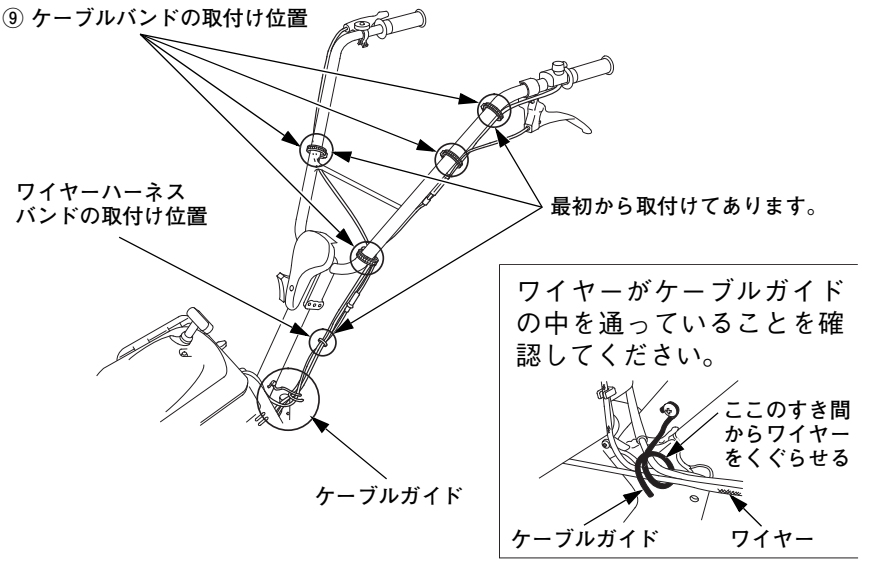
ヒッチボックスに⑥ドラッグバーを入れて、⑦保持ピン 7×48 と⑧固定ピンで取付けます。



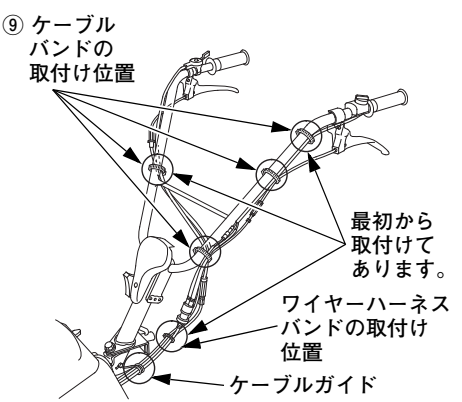
ワイヤリング

バンドとケーブルガイドを使ってケーブルを図のようにとめます。

［JT、JAT、JAST 区分（タイプ）］



［BAT 区分（タイプ）］



HONDA

F220
30V14622
00X30-V14-6220

00X30V14 6220

FM ⓪
©2022 本田技研工業株式会社
Printed in Japan